

ICMPC14 参加報告

広域科学専攻 博士課程3年 岡野真裕（工藤研究室）

「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受け、2016年7月5～9日にかけ、サンフランシスコで開催された14th International Conference for Music Perception and Cognitionに参加した。本学会は音楽の知覚・認知に関わるあらゆる分野を対象とした大規模な国際会議で、隔年で開催されている。学会プログラムによると、今回は事前登録だけで32カ国から、500名以上の参加者による約500件の演題が集まった。



多数の参加者により活発な議論がなされた。



Jam session イベントも開催。演奏家としてもハイレベルな研究者が多数いるとわかった。

筆者は“Detrended Cross-Correlation Analysis Reveals Long-Range Synchronization in Paired Tempo Keeping Task”という題でポスター発表を行った。本研究では、2人組でのテンポ維持同期タッピング課題（2人のタイミングを同期させての指タッピングを、指定されたテンポをメトロノーム無しで維持しながら3分間行う）という、アンサンブル演奏を模した運動課題における2人のタップ間隔時系列の協調構造を解析した。その結果、2人のタップ間隔の「複雑性（未来の値の予測しにくさ）」が、短い時間スケール（約20秒以下）では相関しない一方、長い時間スケール（約20秒以上）では強く相関していた。この結果は、2人組テンポ維持同期タッピング課題におけるタイミング調節の背後に、複数の協調プロセスが介在している可能性が示唆している。ポスターの前で質問やディスカッションを持ちかけてくださった人数は十数名とさほど多くはなかったが、筆者自身が研究を構築していく上でこれまで大いに参考にしてきた海外の研究者の目にとまり、「面白い」「自分の学生に紹介する」などの好意的なコメントをいただけたことは、大変な励みになった。他の参加者の発表の聴講やコーヒープレイク等でも、様々な分野の研究の新しい動向について、国内外の研究者と情報交換、およびディスカッションをすることができた。

発表者としての国際学会への参加は、筆者にとって今回が初めてであった。そのため渡航が近づいた頃から発表が終わるまで非常に緊張したが、とても良い経験ができた。この機会を与えていただけたことに感謝し、研究成果で報いることができるよう、これからの研究にもいっそう励んでいきたい。